



美里図書館や三重県内の図書館で行われた、松原さんの写真展「大槌町/2011夏・2012冬」

市長 この写真集が海外で展示されると聞いたのですが。

松原 9月18日から23日までドイツのケルンで行われる世界最大の映像見本市「フォトキナ2012」の会場で展示されることが決まりました。

市長 世界中の人に写真展を見ていただいて、災害に対応するにはどういうふうにするか、もっと言えば、人の力って何なんだろうということを考えるきっかけになれば良いですね。

松原 本当にそう思いますね。

人の流れが風を生む

市長 そして、松原さんといえば、村の面影が残る風景を集めた写真集「村の記憶」(月兎舎刊) ですね。特に私が印象



©松原豊

「村の記憶」(著者・撮影/松原豊、発行/月兎舎)に収められている闇夜に行われる祭のシーン

に残ったのは闇夜で話をしている1枚なんです。

松原 この写真は、美里地域で夏の夜に行われる男だけが集まるお祭りの風景なんです。

市長 闇夜に浮かぶ祭りの様子が、何か神秘的な感じがしますね。松原さんは、地元でもいろいろな活動をされていると伺っていますが、地元の皆さんとのコミュニケーションはどうですか。

松原 移住して8年近くになるのですが、地域のことなどようやく少し分かってきたところです。

市長 地域のことは地域の人たちで決めていこうという雰囲気があって、ある種のしきたりだとか決めごとだとかがあるわけなんですよ。

松原 僕らは、もともと美里に住んでいたわけではないので、地域の皆さんとの協働性というものを大事にしていきたいと思っています。

市長 他の地域から美里へ戻ってこられたり、移住されたりすることで、地域に新しい息吹が吹き込まれるのではないかなと思うんですが。

松原 そういう人の動きというのは、風を生むんじゃないかと思います。小さいことで構わないので、その風がいろんなところで数多く生まれてくると、地域のエネルギーにつながるといいますね。

ふるさとは「つながり」

松原 私から市長にお聞きしたいのですが、「ふるさと」とは何だと思えますか。

市長 私は「つながり」だと思います。それはもちろん、土地とつながっているということもありますが、人とのネッ

トワークのようなつながり、それから、1つ1つの風景とのつながりみたいなものがあるのがふるさとだなと。

松原 僕も、人と人とのつながりというのは非常に大きいんじゃないかなと思っています。同級生に、たまに会ったりすると「元気か」と、たった一言なんですけど、そういうことがお互いを確認してるということだと思ってるんですね。さらに高齢者が増える中で、ちょっと声を掛ける、そういう確認が取れることが大切だと思いますね。



棚田や集落など、日本の原風景が収められている「村の記憶」

市長 自分たちと同じ世代のつながり、あと世代を超えた、二世帯、三世帯のつながりを大事にしていくような、そんなふるさとを創っていきなと、そういうふるさとであればいいなと思いますね。

松原 そうですね。

市長 今日は、自然豊かで緑に囲まれたご自宅で、写真家としての活動や美里町での暮らしについてお話をお伺いしました。これからも津市の素敵な写真を撮り続けてください。どうもありがとうございました。

松原 ありがとうございました。

◆お知らせ◆

ケーブルテレビ津市行政情報番組では、本紙で掲載した対談を7月1日(日)~7日(土)に放送します。また、津市ホームページ「市長対談」からもご覧いただけます。